

## 第31回 日本臨床エンブリオロジスト学会学術大会

P-34

神奈川, 2026.01.07-08

### 筋ジストロフィー症例に対する PGT-M の治療成績

山本桜子<sup>1</sup> 中野達也<sup>1</sup> 庵前美智子<sup>1</sup> 中岡義晴<sup>1</sup> 森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

<sup>2</sup> 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

#### 【目的】

日本で PGT-M を実施するには症例ごとに審査・承認を得る必要があるため、実施施設が限られている。一方で疾患別の体外受精成績は不明な点が多い。そこで患者本人が罹患者の筋強直性ジストロフィー(DM1)と保因者であるその他の疾患で胚への影響の違いを当院の PGT-M 症例の治療成績から検討した。

#### 【方法】

2017 年～2024 年の間に日本産科婦人科学会の承認を得た 47 名を対象に同意を得て顕微授精後胚盤胞まで培養し PGT-M を行った胚 263 個と、そのうち単一胚移植を行った胚 70 個を対象とした。DM1 群と DM1 以外の筋ジストロフィー症例(MD 群)とそれ以外の疾患(non-MD 群)に分類した。採卵時平均年齢、採卵数、成熟率、受精率、胚盤胞到達率、生検率、また移植胚の着床率、流産率を比較した。

#### 【結果】

症例の内訳として、DM1 群は 11 件(23.4%)、デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)などの MD 群は 18 件(38.3%)、non-MD 群は 18 件(38.3%)であった。平均年齢は  $32.7 \pm 4.5$  歳 vs.  $38.1 \pm 4.9$  歳 vs.  $36.6 \pm 4.5$  歳で DM1 群が MD 群と non-MD 群より有意に若かった。採卵成績を比較したところ DM1 群で成熟率と胚盤胞到達率の低下を認めた。移植成績では、MD 群で流産率が高くなかった。そこで MD 群内で症例ごとに調べると、DMD で流産率が高く、初回移植での妊娠率、着床率が低い傾向にあった。

#### 【結論】

疾患割合は当院でも DM1 が高かった。DM1 は常染色体顕性遺伝のため患者本人が罹患者であり、細胞内の異常伸張した mRNA のスプライシング異常により、内分泌や耐糖能に障害が生じることが、卵子成熟率や胚盤胞形成率が低くなったと考えられる。また MD 群は、採卵時平均年齢が高いことが流産率の上昇に繋がったと考えられる。